

将来の社会見据えた製品開発を

前澤工業 宮川社長が年始あいさつ

前澤工業の宮川多正社長は5日、川口市の本社で年始のあいさつを行った。

宮川社長は、昨年も新型コロナウイルスの影響が大きい1年だったとす



宮川社長

るとともに、世界各国での歴史的なインフレの発生などを挙げて「歴史の流れが大きく変化し、将来予測が困難な時代を迎えたことを実感した1年となった」とし、「致命的なリスクと見過ごしてしまいがちなリスクをしっかりと見極め、正しい選択と実践を基に、適切な経営判断を行っていきたい」と話した。

続けて、宮川社長が掲げる2つの目標である「技術開発の強化」と「社員一人ひとりの個性が活かされた企業組織づくり」に触れ、技術開発の強化については「圧力センサ付バルブや省エネ型深槽曝気技術をはじめ、多くの新技术を生み出すために日々取り組んでいるが、必ず成

果物につなげるといふ強い意志とさらなるスピード感を持って開発を推し進めていただきたい。特に、世界中で自然災害の激甚化が進むなかで、脱炭素社会の実現に貢献する製品開発が強く望まれている。20年、30年後の社会を見据えた製品開発にもしっかりと目を向けていただきたい」と語った。個性が活かされた企業組織づくりについては「面談制度の見直しや新たなキャリアデザイン研修の実施など、制度の充実を進めている」と語る

一方、「制度をどう活用するかは社員次第。自ら考え実行し、自ら学び成長する意欲を持ち、自らを律することが成長の第一歩となる」と話した。最後に、「6月から始まる新たな事業年度は、当社中期3カ年経営計画の最終年度となる。必ず結果につなげるという意識を持って、来年5月のゴールまで突っ走る準備ができたという状態で最終年度を迎えられるようにしていただきたい」と呼びかけるとともに、「一人ひとりが健康で安全第一を念頭に行動し、1年間無事故・無災害で過ごせれば」と語った。